茨歯会報

No.575

茨城県歯科医師会
Ibaraki Dental Association

March
2017
平成29年
3

茨歯会報 No.575

Ibaraki Dental Association
公益社団法人 茨城県歯科医師会

Contents

デンタルアイ 1
渡辺　進

会務 2

理事会報告 16

会務日誌 18

学術委員会だより 21

地域保健委員会だより 24

広報委員会だより 26

センターだより 27

地区歯科医師会だより 30
佐藤　尚子
奥富　康二

リレー通信 36
斉藤　英雄

レディースコーナー 38
石本　崇子

追悼 40

おめでとうございます 41

国保組合 NEWS 42

事務連絡 43

赤えんぴつ 44

表紙写真について

シャトーカミヤ
2008年に国指定重要文化財に指定されたシャトーカミヤ（通称牛久シャトー）です。昨年7月、5年にもわたる修復・耐震工事が完了し、一般公開が再開されました。
現在、日本遺産申請を計画中です。
（社）茨城県南歯科医師会　冨田 浩之

ホームページアドレス
http://www.ibasikai.or.jp/

DENTAL eye

特定健診に対する念いが、叶ってくるとき。

常務理事
渡　辺　　進

特定健診、特定指導の制度から歯科が取り残され長い時間が経ちました。

第３期特定健診等実施計画期間（平成30～35年度）における特定健診・保健指導の見直しにおいて、念願の歯科に関する質問事項が採用されることとなりました。

新規項目として、標準的な質問票22項目のうちの第13番目に入ります。

13食事をかんで食べる時の状況はどれにあたりますか。

①なんでもかんで食べることができる。

②歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある。

③ほとんどかめない。

これに伴い、歯科医師が特定指導における食生活の改善指導を行う場合の研修要件の緩和が行われます。

［歯科医師が特定健診における食生活改善指導を行う場合、食生活改善担当者研修の受講が要件となっているが、歯科医師法第一条で歯科医師が保健指導を掌ることが規定されていること、標準的な質問票で生活習慣の改善に関する歯科口腔保健の取り組みの端緒となる質問を位置付けたことから、現在、歯科医師が食生活の改善指導を行う場合に、現行の食生活改善指導担当者研修（30時間）の受講も要しないこととする。］

長年の念願が少しは叶う時が近づいていると思います。

現代語は、全て「おもい」と言う文字で一くくりにしているが、心の作用としては、かなり違った質のものであるように思う。「思い」は「田の心」と書くが、田んぼで作業をしていると、水が少なければ「水をやらなければ」と思い、草が生えてくれば「草取りをしなければ」と、条件反射的に心に浮かぶようなことを「思い」と言う。日常の生活の中で、心に浮かぶこと、目の前で起きたことに対して、次々と頭をよぎる様々な考えとでも言えようか。これに対して「想い」とは、「予想」と言う意味合いに近い。「予め（あらかじめ）想う」ことであるが、この「想う」は何かに対して反射的に心に浮かぶ「思い」と違って、ある程度のストーリー性を持ったものである。「相手の心」と読み代えることも出来よう。自分だけでは無しに、相手のことも考えた上で、あれこれと思い巡らすことが、この「想い」にはある。

また、「念い」は「今も持ち続けている心」のことである。心の奥底で念い続けていることである。この「念い」に「想い」が重なると

「想念」という言葉になる。「想念」とは、一定のストーリー性を持った上に、それを念い続けることで物事を実現させる大きな力となって働き出してくる。「念力」と言う言葉があるように、「想念」は磁石のように引き付け、物事を動かす力、何かを成し遂げる力として働くことになる。この「念い」と言うのは、非常に強い心の作用である。「念ずれば道は拓かれん」と言う言葉があるが、強い念いを出し続けていると、その念いは「善悪に関係なく実現する」とも言われている。確かに、何かを成し遂げるには、誰かがそれを実現させようと念い続けることで現実になってくる。自分の会社を発展させ、成功するぞと常日頃から念い続け、それを言葉にすれば、自分の耳を通して自分の心に染み込んで行く。それを繰り返し続けていくと、心の中に燻すように「燻重」されていき、物事を実現させる力となって動き出してくる。その人の念いが、似たような念いを持っている人を引き付けていく。「類は友を呼ぶ」と言う諺があるが、これは正に心の法則を語ったものである。心の力は、同じ性質の念いを持つ同士は引き付けあい、違った性質の念いを持ったものは排斥する。あるいは、避けて通るようになる。

「想念」とは、磁石が砂鉄を引き付けて見事な波紋を描くように、その想念に引き付けられて何らかのことが実現してくる。

例えば、ある人が「発展・繁栄」という念いを強く出して行くと、その力に引き付けられて成功の要素になるものが集まってくる。アイデアやお金や協力者など、様々な要素が吸い寄せられるように集まり、回り出してくる。これらが歯車のように回り出してくると、次第に繁栄し、発展していく。このように、人間の想念の力によって、いろいろなものが引き寄せられてくることになる。想念の力、心の力というものは、まるで磁石のように様々なものを引き付けてゆくものである。この意味で言えば、心の作用とは実体を持っていると言える。自分がどのような心を持つかによって、自分自身も変わって行くし、その自分が磁石のような作用を持ち、創造性を持ってくることになる。…という話を聞いたことがあります。

歯科界も念いの遂げられる仕組みができてくると嬉しいと思います。

理事会報告

第11回理事会

日時　平成29年２月16日（木）午後４時
場所　茨城県歯科医師会館　会議室

１．開　　会

２．会長挨拶

３．報　　告

(1) 一般会務報告　（報_資料１）

(3) つくばピンクリボンフェスティバル共催依頼について

(4) （後援依頼）茨城における小児の発達を支える地域リハビリテーションを考える会

(5) 龍ケ崎市医療福祉費支給制度（マル福制度）の対象年齢拡大について

(6) ２月開業予定の歯科医院について

(7) 疾病共済金の支払いについて

つくば地区　　１名　21日
県南　地区　　１名　15日
西南　地区　　１名　22日

(8) 第17回日本睡眠歯科学会・総会学術集会（案）について

(9) テロ対策茨城パートナーシップ推進会議設立総会について

(10) 各委員会報告について

学術委員会、医療管理委員会、地域保健委員会、学校歯科委員会、社会保険委員会、専門学校

４．協議事項

(1) 社会保険委員会委員による個別指導等の対応について

標記について、事故の保険は委員各自で加入し、手当等は実態に即して支給することについて承認した。

(2) 平成28年度歯科医学会講師謝礼について

標記講師謝礼について承認した。

(3) 茨城県歯科医師会健康フォーラム収支予算書案について

標記講師謝礼について承認した。

(4) 茨城県歯科医師会会長予備選挙実施要領案について

標記予備選挙実施要領案について承認した。

(5) 日歯広報コラム『都道府県通信』の執筆について

小野寺理事に記事を依頼することについて承認した。

(6) 口腔センター土浦移設の経過について

費用、設計等について承認した。

(7) CAD/CAM実習研修会開催について

対象者を、歯科技工士及び、歯科技工士科の学生に拡大することについて承認した。

(8) 歯科医学会でのアンケート調査について（女性歯科医会）

標記アンケート調査を実施することについて承認した。

(9) 無料職業紹介所の求人情報の表示内容について

継続して審議することとした。

(10) 無料職業紹介所と専門学校の求人の一元化について

継続して審議することとした

(11) その他

○行事予定について

３月12日（日）第25回茨城県歯科医学会
（終日　プラザホテル）

３月16日（木）第12回理事会
（午後４時　会議室）

会務日誌

２月１６日　第４回業務・会計監査の執行。業務並びに制度に関する監査（12月１日～１月31日）、会計に関する監査（収支現況）実施した。

出席者　鈴木監事ほか６名

２月１６日　第10回広報委員会を開催。会報２月号の校正、会報３月号の編集、について協議した。

出席者　小林広報委員長ほか４名

２月１６日　第11回理事会を開催。社保会委員による個別指導等の対応、平成28年度歯科医学会講師謝礼、茨城県歯科医師会健康フォーラム収支予算書案、茨城県歯科医師会会長予備選挙実施要領案、日歯広報コラム『都道府県通信』の執筆、口腔センター土浦移設の経過、CAD/CAM実習研修会開催、歯科医学会でのアンケート調査（女性歯科医会）、無料職業紹介所の求人情報の表示内容、無料職業紹介所と専門学校の求人の一元化について協議を行った。

出席者　森永会長ほか17名

２月１６日　第２回在宅歯科医療推進協議会を開催。要介護者の口腔ケアガイド内容、配布について協議を行った。

出席者　黒澤副会長ほか14名

２月１６日　第２回茨城県認知症施策推進会議が県庁舎にて開催され、認知症疾患医療センターの指定について協議が行われた。

出席者　森永会長

２月１８日　茨城県歯科大学同窓会・校友会懇話会が水戸京成ホテルにて開催された。

出席者　森永会長

２月２０日　日本歯科医学会第95回評議員会が日歯会館にて開催され、学会会務運営について協議が行われた。

出席者　森永会長

２月２３日　新規指定の個別指導が県市町村会館にて実施された。

対象医療機関数　４

２月２３日　第３回選挙管理委員会を開催。会長予備選挙立候補者の資格審査、役員選挙、日本歯科医師会代議員・予備代議員選挙について協議を行った。

出席者　堀江選挙管理委員長ほか９名

２月２４日　都道府県会長会議が日歯会館にて開催され、時局問題について協議が行われた。

出席者　森永会長

２月２６日　四師会「JMAT茨城研修会」が水戸医療センター看護学校にて開催された。午前はJMAT総論、研修会概要説明の後、各師会ごとに分かれて講義・実地訓練が行われ、午後からは９チームに分かれての図上訓練が行われた。

出席者　森永会長ほか18名

２月２８日　茨城県こどもを守る110番の家ネットワーク会議が県警本部にて開催され、現況説明の後、日頃の活動状況や運営上の問題点等について意見交換が行われた。

出席者　千葉理事

３月　２日　第３回学校歯科委員会を開催。歯科医学会、基礎研修会、検診結果のお知らせ、歯科医学会公開講座３への登録、H29年度基礎研修会について協議を行った。

出席者　千葉学校歯科部長ほか10名

３月　２日　県保健予防課及び長寿福祉課による平成29年度の委託事業に関する説明会が行われた。出席者　森永会長ほか８名

３月　６日　茨城県エイズ対策委員会が県庁舎にて開催され、エイズ・性感染症予防に関する普及啓発の推進について協議が行われた。

出席者　村居常務

３月　８日　茨城歯科専門学校において卒業式を挙行。歯科衛生士科47名、歯科技工士科10名の学生が本校を卒業した。

３月　８日　第13回社会保険正副委員長会議を開催。第12回委員会、指導、疑義、Q&A、理事会、審査内容、合同協議会について協議を行った。

出席者　榊社会保険部長ほか２名

３月　８日　第12回社会保険委員会を開催。疑義、合同協議会について協議を行った。

出席者　榊社会保険部長ほか18名

３月　８日　四師会地域包括ケアWG第６回会議が県医師会にて開催され、地域包括ケアの構築について協議を行った。

出席者　高橋ケアシステム統括マネジャー

３月　９日　未就業歯科衛生士復職支援のための講習会を日立市「西野歯科医院」にて開催。シャープニング、キュレッタージ、超音波スケーラーの実習と質疑応答を行った。

受講者　３名

３月　９日　第184回日歯代議員会が日歯会館にて開催される（～10日）。公益社団法人日本歯科医師会年金保険規則の一部改正の件、平成29年度事業計画の件、平成29年度入会金及び会費の額の件、平成29年度収支予算の件、平成29年度資金調達及び設備投資の見込みの件について議事が、その後時局対策について協議が執り行われた。

出席者　森永日歯代議員ほか２名

３月１０日　大規模災害対策検討会議が東京都歯科医師会にて開催され、災害時相互応援体制について協議が行われた。

出席者　村居常務ほか１名

３月１０日　第３回関東地区歯科医師会大規模災害対策検討議が東京都歯科医師会にて開催され、関東地区歯科医師会大規模災害対策検討特別委員要綱（案）の承認について協議が行われた。

出席者　小鹿副会長ほか２名

３月１２日　第25回茨城県歯科医学会を水戸プラザホテルにて開催。26題の一般口演、８題のポス

ター発表、６題のテーブルクリニック、公開講座、12の各種企画、書籍展示等を行った。

また、併催した第38回茨城デンタルショーへは64社が出展し、歯科用機材などの展示を行った。

参加者　1,078名

３月１２日　第５回学術委員会を水戸プラザホテルにて開催。茨歯会健康フォーラム「口からはじまる健康寿命」、栃木県歯科医学会への派遣候補について協議を行った。

出席者　岡崎学術部長ほか９名

３月１４日　内外情勢調査会３月例会が水戸京成ホテルにて開催された。

出席者　森永会長

３月１４日　茨城県地域医療連携推進協議会が水戸京成ホテルにて開催され、茨城型地域包括ケアシステム推進事業ほかについて協議が行われた。

出席者　森永会長ほか１名

学術委員会だより

第25回茨城県歯科医学会開催

学術委員会　今湊　良証

2017年３月12日（日）に、第25回茨城県歯科医学会（併催　第38回茨城デンタルショー）が水戸プラザホテルにて盛大に開催されました。

偕楽園の観梅見頃の好天の日曜日にもかかわらず、今年は歯科医師352名　歯科衛生士209名　歯科技工士63名　他多数で1078名の参加者のため、お陰様で駐車場がほぼ満杯になり学会場は熱気で盛り上がりました。

開会式では、第25回の記念大会として９名の来賓をお迎えして森永和男会長の挨拶、来賓紹介の後、茨城県保健福祉部理事兼次長　近藤慶一様、茨城県医師会長　諸岡信裕様より祝辞を頂きました。その後、企画案内、実行委員紹介、ポスター演者紹介の後、第38回茨城デンタルショーのテープカットが行われ多くのプログラムが各会場に分かれて開催されました。

一般口演は26題の発表がありました。今年も栃木県歯科医師会員の先生や茨城歯科専門学校衛生士科学生の発表もありました。質疑応答、意見交換も行われ充実した内容でした。

ポスター発表は８題の発表がありました。沢山の方がポスターに見入り、演者に質問しておりました。

テーブルクリニックは午前の部に、珂北歯科医師会　阿部　健先生、昼の部に、土浦石岡歯科医師会　萩原敏之先生、水戸市歯科医師会　森永桂輔先生、午後の部に、東京歯科大学歯科麻酔学講座　准教授　松浦信幸先生、東京歯科大学名誉教授　NPO法人TSF理事長　内山健志先生、水戸市歯科医師会　歯科衛生士　渡邊佳菜先生、の計６題の講演が行われ、各会場にて其々、質疑応答で盛り上がりました。

県民公開講座は、今年も事前登録制でしたが、電話予約で定員の講座や毎年の参加者、二講座への参加者も多数おり、お陰様で楽しみにして参加

される県民の方が増えております。有難うございました。

公開講座Ⅰは、「口は糧の入口、歯医者さんは健康の入口」と題し、日本歯科大学新潟病院　歯科麻酔・全身管理科　教授　藤井一維先生に御講演いただきました。口は活きていく糧となる食物と空気を取り入れるだけでなく、表情の構成要素で、心身を力づける心の糧の発生源であり、歯数と認知症、歯周病と糖尿病など全身疾患と歯科の関係を解りやすく説明いただきました。

公開講座Ⅱは、「弁当プロジェクト４（食べる機能を育てる・維持する・補う）－歯科衛生士校が提案する「五感を楽しむ!噛むかむ!!歯科専弁当」－」と題し、公益社団法人茨城県歯科医師会、いばらき専門カレッジリーグ、茨城県歯科医師会東西茨城地区食文化研究会により行われました。今回は市販可能な弁当として、カラーユニバーサルデザインや手が不自由でも開けやすい弁当箱などを多職種と連携して検討しました。今年度の公募した「噛むかむレシピ賞」の中から４品と今回は「噛むかむ!!歯科専弁当」を提示し、それぞれを試食、考察し、参加者と活発な意見交換を行いました。

公開講座Ⅲは、「子ども虐待の根絶を目指して－歯科界の新たな役割－」と題し、奥羽大学歯学部生体構造学講座法歯学　教授　花岡洋一先生に御講演いただきました。児童虐待防止法について解説の後、子ども虐待の早期発見と防止に歯科領域からどのように貢献できるのか、解りやすく説明いただきました。

介護保険委員会は「高齢者口腔保健の新しい視点：オーラルフレイルーいまなぜフレイルが注目されるのか」と題し、東京都健康長寿医療センター歯科口腔外科部長　平野浩彦先生に御講演いただきました。

（公社）茨城県歯科医師会　口腔センター水戸・口腔センター土浦は、「重症児の栄養と地域連携－小児の栄養の現状と課題：在宅医の立場から－」と題し、子ども在宅クリニックあおぞら診療所墨田院長　戸谷　剛先生に御講演いただきました。

茨城県女性歯科医会は、「お腹の中から歩きだすまで…歯科疾患予防の原点」と題し、赤ちゃん歯科ネットワーク代表、茨城県つくば歯科医師会石田房枝先生に御講演いただきました。

鈴木昇一先生の「写真道場へようこそ！」は、19回目を迎えました。

（公社）茨城県歯科衛生士会は、「歯科衛生士のための歯周病学－科学的思考を身につけるために－」と題し、日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座准教授　関野　愉先生に御講演いただきました。

（公社）茨城県歯科技工士会は、「歯科用CAD/CAMシステムの現状と展望」と題し、（株）ジーシー　歯科技工士　田村拓馬先生に御講演いただきました。

地域保健委員会は第６回噛むかむレシピコンテストの作品展示と表彰式を開催いたしました。今年の食材は、『ねぎ（茨城産の長ねぎ）』で、県内各地から724作品応募の中より、小学生の部応募286作品から５作品、中学生・高校生の部応募245作品から５作品、一般の部応募193作品から２作品が「噛むかむレシピ賞」に選ばれました。受賞者全員が出席した素敵なアトリウムでの表彰式は皆様、大変喜んでおられました。

学校歯科委員会は、学校歯科検診の検診基準・よい歯の学校・歯科医師会長賞の表彰基準について、ポスター展示しました。

厚生委員会は、なでしこクラウドの弦楽三重奏・ミニコンサートを行い、癒しのひと時となりました。

茨城歯科専門学校　歯科衛生士科と歯科技工士科の紹介をロビーにて行いました。

ランチョンセミナーは、「これからのデンチャーケア」と題しましてグラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン（株）歯科衛生士　鈴木栄里子先生に御講演いただきました。事前予約の受講者は美味しいサンドイッチのランチを頂きながら、演題に聞き入っておりました。

第15回福田賞は、茨城県歯科医学会において三度にわたり講演を行い、かつ会員の歯科医療医術の向上に多大な貢献をして頂いた、日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座准教授　関野　愉先生が受賞されました。閉会式にて、森永会長より表彰されました。おめでとうございます。

また、併催した38回茨城デンタルショーは、70社が出展し、診療台・歯科用機材などの展示を行い、各ブースとも盛況でした。

現在、学術委員会では、第25巻　茨城県歯科医学会誌を編集中です。今秋には発刊予定です。一般口演、ポスター発表、テーブルクリニック、各企画などの事後抄録は第25巻を今暫くお待ちください。演題申込は、学会誌の「第26回茨城県歯科医学会のご案内」　演題募集要項を御覧下さい。投稿論文も募集しております。

次回、第26回茨城県歯科医学会は来年２月25日（日）水戸プラザホテルにて開催されます。講演や企画など、御意見・御要望を承り、一層の充実を目指す予定です。

是非とも会員の皆様の発表、参加をお待ちしております。ご協力よろしくお願い致します。

地域保健委員会だより

第６回噛むかむレシピ表彰式報告

地域保健委員会　石崎　雄司

３月12日（日）に、水戸プラザホテルアトリウムにて噛むかむレシピコンテスト表彰式が執り行われました。

噛むかむレシピコンテストは、平成23年度から実施しており、今回で６回目になります。この事業の目的は、よく噛むことの大切さと、そのための歯と口腔の健康づくりについて、普及啓発を図ることとしています。

第３回目からは、地産地消をより一層推進するため、農業産出額全国１～３位の品目から１点以上を食材に活用したレシピであることを募集条件に加えました。

第４回目からは、具体的な食材を指定したテーマ部門を新設し、テーマ食材をわかさぎ、第５回目は、ピーマン、今年度は、募集をテーマ部門のみとして、茨城産の長ネギとしました。

また、選考については、小学生以下の部、中学生高校生の部、一般の部の３部門で、募集を行いました。

関係機関のご協力のもと、広くPRを行った結果、小学生の部286作品、中学生・高校生の部245作品、一般の部193作品、合計724作品という多数の応募がありました。

その中から、厳正な審査の結果、12作品が受賞となりました。

表彰式は、森永会長のあいさつに続き、地域保健委員会　北見委員長より、今回のコンテストの経過報告がありました。

当日は、天気にも恵まれ、受賞者の欠席もなく、森永会長より、記念品と表彰状が授与されました。

最後に、毎年審査でお世話になっている中川学園調理技術専門学校　中川一恵先生から総評をいただき、「噛む大事さを実感し、よく噛んで味わうためには、口腔のメンテナンスが必要である。」とのお言葉を頂戴いたしました。「毎年おもしろいネーミングの料理、まったく想像できない料理、応募者の想像力に、感心しています。今後も、コンテストを通して県民の皆様が噛むということの大事さに関心をもってもらえるとありがたいと思います。」と締めくくられました。

12作品の受賞者は、以下のとおりです。

小学生以下の部

	料理名	氏名	学校
1	長ねぎの豚バラ巻き巻き	酒井　晴渚	大洗町立南小学校
2	茨城の味覚たっぷり 生春巻き	橘　　希奈	水戸市立千波小学校
3	ねぎのにくづめ	米川　瑚雪	水戸市立千波小学校
4	かむかむ ねぎピザ	枝川　玲奈	牛久市立岡田小学校
5	ねぎの干しいもまき	井野　　光	牛久市立牛久小学校

中学生・高校生の部

	料理名	氏名	学校
1	ねぎのハム巻きスープ	小野瀬　滉人	大洗町立南中学校
2	サクサクねぎフライ	鈴木　雄太	鉾田市立旭中学校
3	ふあふあねぎと ねぎとキュウリのサラダ	関　　哲良	城里町立常北中学校
4	ねぎの肉づめフライ	鷹野　海優	城里町立常北中学校
5	肉巻きナムル	坂本　早奈栄	茨城県立水戸第二高等学校

一般の部

	料理名	氏名	学校
1	根菜たっぷり ねぎシュウマイ	山本　冴里	常磐大学人間科学部健康栄養学科
2	明太子のねぎしらたきパスタ	石川　沙妃	常磐大学人間科学部健康栄養学科

広報委員会だより

第25回茨城県歯科医学会報告

広報委員会

2017年３月12日（日）、水戸プラザホテルにおいて第25回茨城県歯科医学会と第38回茨城デンタルショーが開催されました。今年は快晴で、天候にも恵まれた学会でした。

ホテル１階エントランスロビーでウエルカム演奏が奏でられ、受け付け開始、午前９時30分開会式、午前10時にデンタルショー開催のテープカットが行われました。

プログラムは県民公開講座・一般口演・テーブルクリニック・各セミナー・ポスター展示など多岐にわたり、噛むかむレシピコンテストの作品展示と表彰式も執り行われました。デンタルショーの会場前には「学術委員会の本屋さん」、その向かい側には「豪華賞品が当たるかもしれない来場者くじ」など盛りだくさんで、なかなかデンタルショーまでたどり着けません。併催しているデンタルショーも大盛況で、ユニットからレセコン、機材、衛生商品まで多数陳列、紹介されています。お土産もたくさんありました。

今回の学会の来場者数は、総計1078人とのことで、大盛況のうちに終了しました。茨歯学会とデンタルショーは最新のものに触れられる絶好の機会です。まだ来たことのない会員の皆様もぜひご来場してみてください。最後になりますが、すでに来年の開催も決定しております。平成30年２月25日は第26回茨歯学会に行ってみましょう。

センターだより center

（公社）茨城県歯科医師会主催 第２回障害児・者歯科講演会

（公社）茨城県歯科医師会　口腔センター水戸
関口　浩、村居　幸夫、征矢　亘、森永　和男

はじめに

平成29年２月５日（日）に霞ヶ浦医療センター講堂におきまして、（公社）茨城県歯科医師会主催の第２回障害児・者歯科講演会が開催されました。今回は「発達的な偏りを持つ子どもの伸びやかな育ちを支えるために　～それぞれのライフステージでの大人の関わりのポイントを考える～」と題して、藤川志つ子先生（新渡戸文化短期大学准教授／臨床発達心理士・臨床心理士）に御講演いただきました。 本講演会には歯科関係者以外に障害者に携わる多職種の方、家族など58名の参加者の皆様に御来場いただき、熱心に拝聴されていました。講演終了後には参加者と活発な質疑応答が交わされ、盛会のうちに終了しました。本講演会について、アンケート結果をもとに御報告します。

講演内容の要旨

発達的に偏りを持つ子どもたちとお付き合いする時に彼らが「笑顔」になれる事は？

「出来た」「楽しい」と思えることは？と探ることを心掛けています。子どもたちが笑顔になる事で、私も支えられています。そんな子どもたちも当然ですが「大人」になります。社会の一員として暮らしていく子どもたちの少し先の未来を見据えて、周囲の大人が今できることを一緒に考えたいと思います。

藤川志つ子先生

アンケート集計結果

受講された方々には所定のアンケート用紙に無記名で記載をお願いし、会終了後に回収しました。アンケートを集計し、その結果をまとめたので報告します。

１）受講者数とアンケート回収率

受講者数は58名であり、アンケート提出者数は48名で回収率は82.8%でした。

２）性別・年齢

性別は女性39名（81.2%）、男性９名（18.8%）でした。年齢は30歳代が14名（29.2%）と最も多く、次いで、40歳代12名（25.0%）、50歳代10名（20.8%）、20歳代７名（14.6%）、60歳代４名（8.3%）、70歳代１名（2.1%）の順でした。

３）職種

受講者の職種の一覧を表１に示します。

歯科衛生士と歯科医師を合わせると15名（36.6%）であり、その他、様々な職種、家族が出席していました。

表１　受講者の職種

職　種	名（%）
歯科衛生士	7（17.1）
保育士	10（24.4）
歯科医師	5（12.2）
保健師	4（9.8）
主婦	3（7.3）
言語聴覚士	1（2.4）
作業療法士	1（2.4）
准看護師	1（2.4）
教員	1（2.4）
教育関係	1（2.4）
社会福祉士	1（2.4）
心理士	1（2.4）
会社経営	1（2.4）
スクールアシスタント	1（2.4）
会社員	1（2.4）
自営業	1（2.4）
無職	1（2.4）
計	41（100）

※無回答の７名は除く

受講者の評価

講演内容に対する受講者の評価を表２に示します。「非常に良かった」が37名（77.1%）で、８割近くを占めていました。

表２　受講者による評価

評　価	名（%）
非常に良かった	37（77.1）
良かった	11（29.9）
あまり良くなかった	0
良くなかった	0
計	48（100）

受講者の感想・意見

講演内容に関する受講者の感想・意見は以下のとおりでした（一部記載）。

・具体的な支援の方法がわかりました。藤川先生の毎日「にこにこと楽しく過ごす」目標いいですね。私も支援の目標にできたらと思います。

・とてもわかりやすい話で納得できることがたくさんありました。特に色の見え方では、他の人と見え方が違うと「え！なんでそうみえるの!?」と感じましたが、発達障害の人がいつもそう感じているのかと思うと、なるほどと思いましたし、そんなことばかりでは苦しいだろうなあとも思いました。相手を理解するということがいかに大切か気付くことができました。

・子どもの困り感を体感するワークや藤川先生の実際の体験を通した提言など、とても勉強になった。スモールステップで達成感・・・本当に大切だと思う。

・自分のクラスの気になる子への対応を改めて考えていこうと思いました。また、その子への適切な対応が今後の社会生活への自立へとつながっていくことを自覚し、日々の保育に取り組んでいこうと思いました。

・とてもわかりやすかったです。実践を通して子どもたちが感じている気持ちを少し理解できました。療育をしていると、「頑張れ」が口癖になっていると思いました。見守ることも大切にしたいと思います。

・私には、自閉症スペクトラムの３歳の男の子がいて、今回のお話をきかせてもらって改めて子どもとの関わり方を学ばせて頂きました。そして、今までの育て方を改めないといけないと感じました。

・仕事で支援の必要な子どもたちと接していますが、たくさんのヒントを頂きました。子どもの心を折らないで「わかった！」と思える機会を、工夫して増やしていきたいと思いました。また、

これは普通の子育て、全ての子どもの教育に通じることだと思いました。

・「わかった」「できた」と楽しくできるように働きかけることの大切さを再認識しました。ほめほめ貯金がたくさんたまるような生活になれるようにしてあげたいと思いました。

今回の講習会が受講者にとって医療、支援の現場における種々な問題・疑問の解決に役立つ内容でありましたら幸いです。今後も受講者の方々の要望を考慮して実りある講演会を企画していきたいと考えています。

講演会風景

原稿募集

身近な出来事から臨床まで皆さまのご意見・感想を載せてみませんか。

「茨歯会報」は会員皆さまの会誌です。臨床におけるヒントや趣味、旅の思い出など、また地区歯科医師会や同好会・同窓会の様々な活動（研修会、厚生事業）など何でも結構です。会報をフルにご活用下さい。

Ｅメールの投稿で結構です。形式はどんな形式でもかまいませんが、出来ればテキスト、ワード、一太郎、にてお送り下さい。

詳しくは、茨歯会事務局まで。

E-mail　id-05-koho@ibasikai.or.jp

広報委員会

地区歯科医師会だより
Ibaraki Dental Association

水戸市歯科医師会 介護講習会

人生最期の食支援の実際

― よぼう、リハビリテーションからお食い締め支援まで ―

㈳水戸市歯科医師会　佐藤　尚子

講師：牧野 日和（ひより）先生
（愛知学院大学 心身科学部講師）
澤田 公美 先生
（介護福祉士 ケアマネージャー）
日時：平成28年11月６日（日）午前10時～午後１時
場所：茨城県歯科医師会館 ３階講堂
主催：一般社団法人･水戸市歯科医師会
共催：茨城県歯科医師会
常陸大宮市グループホーム連絡協議会

平成28年11月６日（日）茨城県歯科医師会館講堂において、牧野日和先生に加え、実際に「お食い締め（※）」を支えたご家族でもあった澤田公美先生のおふたりをお招きし、上記介護講習会が行われました。

（※）牧野先生が支援・実践されているお食い締めは“人生の最期の食”のこと。お食い初めが人生最初の食事であれば、お食い締めがあってもよいのではと先生が命名されたものです。

１．食支援の変化

①昭和の終わり頃

・食べられる可能性のある人にも胃ろうを造設した「胃ろう偏重」時代。

②2014年頃から

・多くの生物は最期は食べられなくなるものであるのに、口から食べることに価値を置いてしまう「口から食べること偏重」時代。

③現在

・口から食べ物を摂る可能性が有るか無いかを探りながら、知識や経験に裏打ちされた支援が望まれる時代。

・しかし口からの食事を摂れるか、摂らないほうがよいのかを探りながら、みとりの食を支援する道のりは、湖に張った薄い氷の上を歩くような緊張感、やらなければよかったという後悔を伴う危険な道のり。

2．『最期のひとくちの支援』にとても重要であること

①対象者を一歩はなれた位置で世界的なデータと照らし合わせながらの科学的な観察。

②唯一無二の存在として対象者のバックグラウンドを含めた人生史の観察。

・心と体の状態を正しくとらえる努力をすることが、対象となられる方とその家族に寄り添う最後のひとくちの食支援につながる。

3．自分の死を意識してからの心理

①死を目前にされた方への調査（アメリカ）

『余命３日の今、思うことは何ですか？』

・多くの回答「自分の人生には意味があったのだろうか…」と振り返り思う。

②人は年を重ねたり親の死の経験や自分の死を意識したりすると、地球の歴史の中の存在として自分をとらえ、自分が奇跡的に生まれていることや自分が死んだあとの後進について思いをはせるようになる。

③心理学では「40歳50歳の生き方が死にざまを決める」ともいわれる。

④アメリカの心理学者マズロー　自説（５段階説※）を改める

（５段階説※とは：人間の欲求を５段階に分け、１段階目の『原始的欲求･生理的欲求』を底辺とし、それが満たされると２段階、３段階と上がって行き５段階目『自己実現欲求』を満たすことが最高の欲求の実現であるという説）

・マズロー亡くなる数年前：自己実現の上にあるものは＜自己超越＞である。

『自分はいろいろなことを行い、いろいろなことを乗り越え、子や孫を持つことも出来た。後進はうまくやってくれるであろうという安心した気持ちになることで十分であり、自分は死んでもよいのだという確信感こそが人生最高の幸せな感覚（自己超越）である。自分のやりたいことを実現させること（自己実現）はそれほど遠いことではなかった』とマズロー自身の生を通して感じたことを、お弟子さんを集めて伝えたそうです。

4．みとり期の食支援の本質

①みとり期の食支援にとって「食べる食べない」は重要でない

・食べられなかった人が食べられるようになれば感動するけれども（マズローが語るように）死にゆく人が人生を振り返って自分はここまでがんばった、そして息子や娘に愛されて死んで行けるという感覚を持てることが大事。

②対象者が死をすすんで受け入れることが出来るよう配慮する。

・死を目前にして自分の人生に意味を求めて後に生きる家族の未来に思いを寄せる…というような死にゆく人が自己超越を謳えるよう、対象者がこの世との永遠の別れの苦しさや未練を断ち切り、心の迷いに折り合いをつけ死を受け入れることが出来るように配慮する。

5．送る側・家族への支援

①心に寄り添う支援を

・受け入れざるを得ない対象者の死に向き合い死から生を学び、自分の生を検討する機会である「苦しい経験」をしている送る側の家族へは、アドバイスではなく、そっと心に寄り添う支援が必要。

②対象者への支援よりも重要

・最期まで対象者の人生の質を重んじながらも、送る側の支援は対象者への支援よりも重要であるとも言われている

6．仏教と『みとり期の支援』

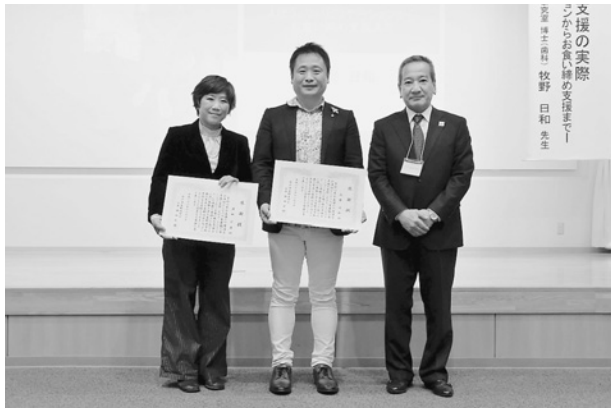
①仏教では、人間の出生から死を日の出から日の入りに例えられる。

・東（日の出）：薬師如来～病苦を取り除き安泰をつかさどる（CUREキュア）
・西（日の入）：阿弥陀如来～来世の平穏をつかさどる（CAREケア）
人生終盤の西の国では、病気や障害が重症化してしまっている人々がたくさんいます。しかし阿弥陀如来は病気や障害を治すのでなく、人々に癒しを与え（CAREケア）来世に導いていくそうです。

②みとり期の支援
・阿弥陀如来（CAREケア）：健康な部分を生かしながら食事をする様子は『みとり期の支援』そのもの。

牧野先生は講演の最後に、宴会のおわりに「宴もたけなわですが…“よ～ポン”」とする日本の文化「一本締め」は「お食い締め」に通じるものがあると思っているとお話されました。お食い締めによって、死に行く人は「やってもらった」「家族のために食べてやった」という気持ち、送る側は「やれることはやった」「してあげられた」という気持ちが生まれ、けじめとして通ずるものがあるとおっしゃっていました。

対象者の自己超越感を促し、家族はけじめをつけて胸をはることができます。故人の面影が心の支えとなり、泣きながらも家族は次をめざせるようになります。



死を学ぶ場である、みとりの食の支援は『先人から後進への渡り（ライフバトン）を支える支援』であるとの講演最後のお話は、人の命の営みも、宇宙の営みの一部であることを感ぜずにはいられないものでした。

当日は、㈱明治にご協力いただき、参加者全員への介護食のサンプルや資料の配布に加え、講堂前ロビーでは、明治製品の介護食を実際に試食できる特設ブースも設けられ賑わいを見せていました。

在宅療養支援歯科診療所の施設基準に該当する講習会でしたが、歯科関係者だけでない多くの方々が参加され、介護への関心の高さを感じる講習会となりました。

●牧野先生はFacebook「お食い締めワールド」の開設をされています（毎週金曜更新とのこと）。

西南歯科医師会 学術講演会

BANDO-BLS講習会（救急救命の実習）

㈳西南歯科医師会　学術委員　　奥富　康二

日時：平成29年２月19日（日）　13：30～18：30
場所：古河市福祉の森　１Ｆホール

知っていましたか？ AEDは止まっている心臓を電気ショックを与えて再拍動させる機械ではなく、致死的な不整脈（特に心室細動：VF）を起こしている心臓を、一旦、電気ショックを与えて、乱れている心臓の拍動を止め、一回揃えてから規則的な拍動をさせるようにする機械がAEDだということを。AEDの正式名称は自動体外式除細動器でしたね。また、一次救命処置（BLS：心肺蘇生とAED） を必要な状態に会う機会（AEDを使用するような）が、一生に一度有るか無いかといわれています。が、心停止の死亡者数が、１年間で76,141人（平成27年度）、１日で約210人というデータがあります。また、高齢化に伴って心停止で死亡する方が増加傾向にあることから、一次救命処置が必要となる状況に会う確率はもっと高い様に感じます。

今回の講習の目的は、心停止や窒息という生命の危機的状態に陥った人を救うために、必要な知識の講義と救急救命の実習です。先生方は、一度は救急救命の講義と実習に参加されたと思いますので、講義の要約と救急救命の実習に参加した感想を述べたいと思います。

帝京大教授　鈴木宏冒先生により講義から始まりました。

日本蘇生協議会（JRC）が提唱する救命の連鎖

１．心停止（CPA）の予防：主な生命を脅かす「緊急事態」

（１）急性冠症候群　（２）脳卒中
（３）突然の心停止　（４）窒息

２．心停止の早期認識と通報

肩をたたいたり、大声で呼びかけても何らの応答や仕草がなければ「反応なし」とみなします。

正常な呼吸してない状態（死線期呼吸、あえぎ呼吸およびはっきりしてない呼吸）を「心肺停止」と判断します。

１）反応（意識）なしの時は、大声で応援要請します。（119番通報とAEDの依頼）
２）呼吸なしの時は、応援要請してからすぐに心肺蘇生を開始します。
　（１）カーラーの救命曲線：時間の経過とともに救命は困難になります。
　（２）心停止から３分で死亡率が50％に上昇、７分で死亡率が100％になります。救急車が到着するまでの時間が全国平均で７分だそうです。
　（３）心肺蘇生（CPR）をしなければ１分間に生存率が７～10％低下します。
　胸骨圧迫だけでも続けていれば １分間の生存率の低下が２～３％に押さえられます。

ゆえに、心停止を早期に認識、応援要請して、すぐに胸骨圧迫を始めなければ傷病者を救えません。

3．一次救命処置：BLS（心肺蘇生とAED）

1）心肺蘇生（CPR）は胸骨圧迫と人工呼吸

胸骨圧迫の部位は胸骨の下半分、目安として「胸の真ん中または左右乳頭の間」です。胸骨圧迫のテンポは、100〜120／分（アンパンマンのマーチやSMAPの世界に１つだけの花のテンポだそうです）で、胸骨が深さ約５cm（小児は胸の厚さの１／３）程度、沈むようにしっかり圧迫します。また、毎回の圧迫ごとに完全に圧迫を解除し、胸が元の高さに戻る様にすることも重要です。

人工呼吸は、頭部後屈あご先挙上法を用いて気道を確保します。１回換気量の目安は、人工呼吸によって傷病者の胸の上がりを確認できる程度とし、約１秒かけて胸が上がるように息を吹き込みます。人工呼吸を実地するときは、感染防御具（フェイスシールドやバック・バルブ・マスク等）を使用し、感染予防策を講じます。もし、人工呼吸ができない場合（感染防御具が無い等）や人工呼吸で胸の上がりが確認できない場合は、胸骨圧迫を優先し無理に人工呼吸をしなくても良いそうです。また、人工呼吸中の過換気は避けます。

胸骨圧迫と人工呼吸は、30回に対して２回の割合で行います。

2）AEDが到着したら、まず、電源を入れてAEDの音声ガイダンスに従って、右前胸部と左側胸部にパッドを（ペースメーカー、ネックレス等の金属、汗等の水分に気をつけて）装着します。心電図の解析（心電図の解析中は、胸骨圧迫を中止して傷病者に触らないようにします）を経て、必要に応じてショックボタンを押して電気ショック（電気ショック時も傷病者に触らないようにします。傷病者が金属のベット等に寝ているときは、ベットの金属部分等にも触らないようにします。触っていると電気ショックを受けることがあるそうです）を行います。電気ショック後、意識や反応がないときは、すぐに心肺蘇生を再開します。胸骨圧迫30回と人工呼吸２回を１サイクルとして５サイクルを行うと、約２分間経過します。最初の電気ショックから２分後、

AEDから再度音声ガイダンスが流れ、自動的に心電図の解析がはじまります。AEDの音声ガイダンスに従って、最初の時と同様に電気ショック、心肺蘇生を行います。その後は、心電図の解析、電気ショックそして心肺蘇生を繰り返し行います。

また、心臓の拍動が正常に回復して電気ショックを行わない時がありますが、パッドは装着したままにしておき、心肺蘇生を繰り返し行います。

心肺蘇生を中止するときは、意識や反応が回復したとき（いやがるなどの目的のある動きを見せたとき）か、救急隊員が到着して心肺蘇生を交代するときです。

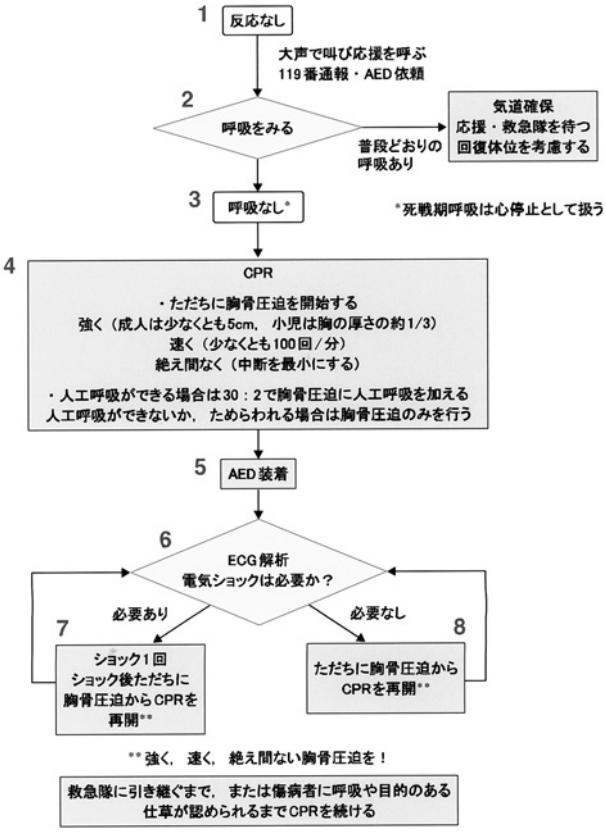
４．二次救命処置と心拍再開後の集中治療

二次救命処置は、心肺蘇生で意識や反応が回復しない傷病者に対して薬剤や医療機械を用いて行うものであり、心拍再開後、医療機関で集中治療を行うことで社会復帰の可能性を高めることができます。

実習は、西南消防の消防士さんと西南医療の看護師さん各１名、計２名の指導にて、５～６人ずつ４班に別れ、心停止の早期認識と通報、一次救命処置：BLS（心肺蘇生とAED）と気道異物による窒息の対処法を行いました。

BLSのアルゴリズム（図）を参照してください。

実習を受けてみての感想を述べたいと思います。僕自身BLSの参加は今回で６回目になりますが、初めて、胸骨圧迫30回と人工呼吸２回を５サイクル、約２分間、CPRを行いました。はっきり言って疲れました。一人ですべてを行うことは体力的に無理で、疲労による胸骨圧迫の質が低下します。故に、一人でも多くの人の助けが必要なります。BLSを知っているだけではダメで、BLSができるという人が一人でも多くいる必要があると感じました。マニュアルにも、救助者が複数いる場合は、１～２分ごとを目安に交代し、胸骨圧迫が浅くなることに留意。また、交代に要する時間を最小限にすべきで（できるだけ胸骨圧迫を止めないで）、絶え間なく全身に血液を流れるさせる必要があると書いてありました。最後に筆記試験を受けて、無事、BLSの講習会が終了しました。



BLSのアルゴリズム

トレッキング

㈳茨城西南歯科医師会　　斉藤　英雄

鈴木哲之先生から回ってきましたが・・・・

さて、何を書けば良いのか・・・・

これと言って、趣味も無いですが・・・。

少し身体を動かそうと思い、以前は古河花桃10キロマラソンにエントリーし、いつかはフルで走りたいと思っていましたが・・。膝を痛め断念。

次は何をしようかと模索し、トレッキングへ。

そこで、百名山を年に一つ以上登ろうと目標を立てました。筑波山や隣の宝篋山でトレーニング（ちなみに筑波山も百名山の一つです）。筑波山はロープウェイやケーブルカーも使えるし、山頂周辺は自然遊歩道もあるし、御幸ヶ原はお土産屋・食事処もあり、トイレも綺麗でその日の自分の状態で登れるのでお気に入りの場所です。

新しく御幸ヶ原近くに巨木の見学コースもでき、カタクリの季節も良いです。

一人で中腹辺りを登っていると、前方を歩いていた人が突然立ち止まり、しきりに何かを見上げています。何を見ているのだろうと？その見上げる方向に目を向けると、真っ赤な椿の花が・・・・。こんなに大きく高い椿の木があるんだ、と感激です。下ばかり見て歩いていると気づかない事。人生も同じで、時に立ち止まり、上を向かないと分らないことが有るんだなと教わりました。

ちなみに宝篋山は461メートルの低山ですが（スカイツリーの三分の二位）、山頂の景色はこれまた素晴らしいです。トレッキングコースも変化に富み整備され、木々・草花野鳥も多く、自然を十分感じて歩けて駐車場も無料。

宝篋山小田城コースにて

特に春には山桜が山をピンクに染め、山道はこぶしの花の白い絨毯が来る人を迎えてくれます。

自然が多い分、虫除けスプレーは必要です。

一昨年は家内の郡山の実家の近くの万葉集や智恵子抄で有名な安達太良山へ。ゴンドラで途中まで行き、見上げた空は真っ青な本当の空。ここまでで大満足。

しかし、それからが本番のトレッキング。家内と二人でトレッキングポールを使い、お年寄りが杖を突くように登ります。

人が多くて狭い山道は数珠繋ぎ。ペースがつかめない中、道端のリンドウが疲れを癒してくれます。その後は、岩場とガスばかり・・・・・・。

自分は疲れ果ててばてている中、家内は黙々と登って行きます。

宝篋山では、『ここはケーブルカーは無いの？』と文句言っていたのに・・・。

女性は強いな・・・。頂上は有名な安達太良乳首です。予定では家内にリュックを預け、自分一人で登るはずが・・・・。目の前の山頂は鎖で登るガレ場。『乳首は登らない』と家内に話すと、『ここまで来て、何を言っているの』・・・・。

上が安達太良乳首です

『私は登る』と。自分も後を追うように山頂に。やっと山頂から降りてお弁当。

来る途中買ったコンビニ弁当がうまい。環境が変わればこんなに美味しいと感激です。隣には初老の女性がお孫さんと来ていました。

この高度と強い風の中で手際よくお湯を沸かし、カップラーメンを食べています。

凄いな～とみていたのですが、更にその左腕には缶ビールが・・・・。

しかも冷えている・・・。

女性の平均寿命が男性より長いのが納得です。

帰りは楽で、ノンストップ。

次の日は、朝早くから家内が、今日は磐梯山よと・・・・・。

え・・・・・・無理。安達太良遊歩道に変更・・・・。

昨日とはうって違い誰も居ない。しかも滝が何個も有り、マイナスイオン全身浴び、最高の景色です。ここもお勧めです。

次の予定は男体山。NHKの百名山の男体山のビデオを何度も観て、イメージトレーニング。しかし、下りになるとまた膝が・・・・・。

冬場は診療室から綺麗に見えるので、何時かは登ってやると・・・気持ちだけは。

暖かくなり、膝も良くなれば・・・チャレンジしたいです。

が、ルームランナーも洋服掛けになっているし・・。

最近はワンコと一緒に・・・・・お散歩に行くくらい・・・。

では、このへんで公私共に大変お世話になっている小野寺宣夫先生にバトンタッチします。

レディースコーナー no.194

我が家のブルタン

㈳東西茨城歯科医師会　石本　崇子

レディースコーナーに何を書いたらいいのかいろいろ考えましたが、私の家族のフレンチブルドックの事をご紹介させて頂きたいと思います。

すでにミニチュアダックス「ダック」を飼っていましたが、以前からフレンチブルドックをずっと飼いたいと思っていました。時間があればネットやお店で探していて、自分で勝手に黒のフレンチブルドックで名前は「ブルタン」と決めていました。

たまたまネットで宇都宮のペットショップに黒フレンチブルドックがいるのを見つけ、ちょっと見に行ってみようと軽い気持ちで出かけました。ペットショップにいろいろなかわいい子犬達がたくさんいましたが、お目当ての黒いフレンチブルドックを発見。原住民の子供を思わせる顔をしていました。隣にスタイルのいいボストンテリアの子犬もいました。ボストンテリアもいいなって思いつつ、黒フレンチブルドックをゲージから出してもらい、抱っこさせてもらうと私に抱きついてきてブヒブヒ言いながら離れません。顔はイマイチな気もしましたが、そのブヒブヒさにやられてしまい、気が付いたら家に連れて帰っていました。

家に帰って、おとなしいダックと仲良くなるかと思っていたら、１人っ子状態な所に変な顔した黒ブヒ登場でダックはかなりのヤキモチを焼き、ヒステリー気味になりました。当面一緒には出来ないと言う事になり、私の部屋で面倒みることになりました。ゲージに入れておく事を慣れさせようと思いましたが、すぐブヒブヒ鳴き、抱っこすると大人しくなり、毎日それを繰り返していると、気付いた時には横に一緒に寝ているようになりました。

序列では先にいたダックのほうが上だと思っていましたが、段々ブルタン「ブーちゃん」のほうが偉そうな感じで、それまでしつけが行き届いたダックまで、ブーちゃんに似てしつけが出来てない悪い子になっていきました。そんな日々が続きましたが、ダックとブーちゃんは段々仲良く？なっていき、２匹で一緒にいられるようになってきました。

よく言えば自由奔放なブルタンが、４歳の時に突然具合が悪くなりました。獣医さんに慌てて連れて行き、診察してもらいました。原因は尿管結

石で、一時的に手術で石を取り除けば良くなるかもしれませんが、腎臓に無数の石があり手術してもまた具合は悪くなるかもと言われました。ただこのままだと危ないと言われ、手術をして頂きました。

術後の経過も良く、１週間で退院してきましたが、療養食になり薬を服用するようになりました。人間並みに手厚く診療してもらっていましたが、それでも具合がたびたび悪くなり、今までに６回近く手術をしています。また尿管をそれだけ手術すると傷が瘢痕化して尿管が塞がってしまい、カテーテルを入れオムツをするようにもなりました。その後に右側が顔面麻痺にもなりました。

それだけ獣医さんに通院、手術していると当然と多額の医療費がかかっています。家族で「薬代、手術代を合わせたら何匹のフレンチブルドックが飼えるだろうね」といつも言っています。具合が悪くなっても獣医さんに診てもらうと元気になって家に帰ってくるブーちゃんを見ると仕方ないと思い、犬の為に今働いている感じと言っても過言ではありません。

あれから５年が経過し、今ブルタン９歳になりました。少し前から真っ黒だったお顔も少しずつ白くなってきました。カテーテルは少し前から外せるようになりました。オムツは外せませんが、だいぶ元気になってきました。

最近、昼間は家族みんなが留守にしているのでその間は寝ていて、夜家族みんながそろうと起き始め走り回っています。そんな姿はかわいいと思いますが、昼夜逆転で夜中に私を遊んでと起こすのはやめてほしいです。

去年ダックがなくなりブーちゃん１匹になり、本当はもう１匹飼いたいところですが、いろいろあるブーちゃんを考えるとなかなか飼う気にはなれません。時々、これだけかわいがっていても恩を仇で返される時もありますが、家族の一員のかわいい弟です。

ブーちゃん、これからも元気で長生きして下さいね。

次回は犬好きで私のお姉さん的存在でWikipedia並みに何でも物知りな岡田倫子先生にお願い致します。

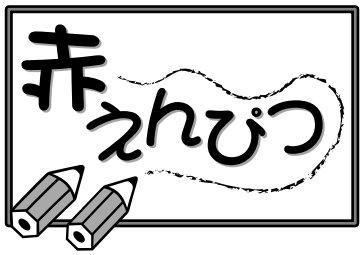
おめでとうございます

厚生労働大臣表彰

志村　俊晴先生（取手市）

先生は、長年にわたり、地域の歯科医療に専念する傍ら、茨城県歯科医師会の歯科保健普及活動、警察歯科医会の活動、防災・防犯活動に積極的に取り組み、広く公衆衛生活動に尽力された功績により、２月13日（月）に大手町サンケイプラザにおいて、厚生労働大臣より表彰されました。

心からお祝いを申し上げ、益々のご健勝をお祈り申し上げます。



２月19日に、家内と三浦海岸桜まつりの河津桜を見にドライブをした。その日は、風もあまりなく穏やかな日の為か、大勢の人で混雑していた。濃いピンク色の河津桜が、青空に映えていた。今年は、暖かい日が続いた為か少し早いそうだ。その日は満開を少し過ぎた頃合いで、風の具合で花びらが時折舞う事もあり風情を一層感じさせた。が、花より団子で三崎と言えばマグロ、酒の肴に冷凍のマグロを買って帰り、後日美味しく頂きお酒が進んだのは言うまでもない。

今年は、マツダのコスモスポーツが発売されて50年になる年です。世界初の２ローターロータリーエンジン搭載の量産車。1967年５月30日に148万円で発売。当時の大卒初任給が26500円、今日ではこの初任給から換算すると1000万円以上もする値段でした。ともあれロータリーファンにとっては、イベントで忙しい一年。車も我が身も老体にムチを打ちながら、1968年生まれの我が愛車と共に。

（コスモッコ）

寒い寒い、今年は今までの人生の中で一番寒い冬でした。薬で血圧を下げているため、手足の冷たさが尋常ではありません。冷え性の妻にまで手足が冷たいのを自慢している今日この頃です。また、診療中患者さんの顔に触れたときに今まで感じなかった熱さを感じるようになりました。長年通っている患者さんにしてみたら手が冷たい人に変わったと思われているのかもしれません。

そんなわけで、人生初の「ホカロン」の登場です。シャツの上から肩甲骨の間に貼り付けます。これが想像以上に良好。何とかこの冬を乗り越えられそうです。もうすぐ春がやってきて、暖かくなってくれるのが待ち遠しいです。

（くすくすくす）

年が明けたと思っていたら、はや３月。年々、時が経つのが早くなっている。この時期、毎年の恒例作業は地区会報の作製。会合、打ち合わせで家を空けることも増え、夜な夜なメールで校正作業をすることも。そんなこんなで出来上がると、あっという間に３月も過ぎており、体はクタクタになっている。１年で一番、時が経つのが早い時期かもしれない。

さて、巷ではWBC侍ジャパンで盛り上がっているが（今号発行時は終了しているが）、野球中継延長により３時間遅れで放送された「プロレス総選挙」という番組をご存知でしょうか。現役・OBレスラーおよびファンの投票により、すごいと思うレスラーのベスト20を決めるというもの。そういえば、昔はよくプロレスを観ていた。今思えば滑稽な演出も、以前は熱くなっていた。前田日明が目の前を通り、吸い込まれるように後楽園ホールへ観戦に行ったこともあった。

そんな思いもありテレビを見ていると、最近のレスラーはほとんど知らないが、昔の映像は鮮明に覚えている。長州のかませ犬発言や、猪木のホーガンによる舌出し失神事件など、懐かしいシー

ンも多々映し出され、思いのほか楽しめた。

新旧プロレスファンにとっては、ゴールデンが深夜番組になってしまい、不満も多かったようだが、疲れた体が少しだけ元気になったような気がした。

（仁）

みんなの写真館

Photo Gallery

(社)茨城県南歯科医師会　冨田 浩之

牛久大仏と芝桜

牛久沼

牛久自然観察の森の梅林

得月院

上／横綱稀勢の里関
2月18日
牛久市祝賀パレード

左／横綱稀勢の里関
牛久駅東口に設置された記念石碑

会　員　数

平成29年2月28日現在

支　部	会員数(前月比)	
日　立	123	
珂　北	138	
水　戸	155	−1
東西茨城	73	
鹿　行	105	
土浦石岡	172	
つ く ば	122	
県　南	177	
県　西	153	
西　南	105	
準 会 員	1	
計	1,325	−1

1種会員	1,152名
2種会員	40名
終身会員	131名
準 会 員	1名
合　計	1,324名

みんなの写真館写真募集！

このページには皆さんからの写真を掲載できます。表紙写真に関連した写真、御自宅の古いアルバムに埋もれた写真などを御送り下さい。

Ibaraki Dental Association
公益社団法人 茨城県歯科医師会

茨　歯　会　報

発行日　平成 29 年 3 月
発　行　茨城県歯科医師会　水戸市見和 2 丁目 292 番地
電　話　029(252)2561～2　FAX　029(253)1075
ホームページ　http://www.ibasikai.or.jp/
E-mailアドレス　id-05-koho@ibasikai.or.jp

発行人　征矢　亘

VEGETABLE OIL INK　この会報には、環境に配慮して植物油インキを使用しております。